

ベストクラス候補選定理由書

作成者：木澤直子，田中里奈，岸田恵津，山中一英，中西あつ子

科目名称		教育方法論	
(担当教員名： 安藤 福光)			
課程	： 学部	開講時期	： 後期
授業形態	： 講義	授業規模	： 81人以上
インタビュー対象教員名		安藤福光	
(実施日時：令和元年7月19日(金)13:10~14:05 ; 実施場所：総合研究棟小会議室)			
インタビュー対象受講者名		小室咲希，鈴木友梨，小森夏奈，堂本明里	
(実施日時：令和元年7月24日(水)10:40~11:20 ; 実施場所：総合研究棟中会議室)			
選定理由			
【教員へのインタビュー】			
<p>一回の授業に一度は教育現場の実際の話を取り入れるようにしている。機会があれば積極的に教育実践に関わるビデオや写真を受講生に紹介し、学生の状態やニーズを把握しながら素材を精選している。初回から3回で、授業規律を学生に周知させ、授業で使用する資料は学生自身が自らライブキャンパスで入手しプリントアウトして授業に臨むなど、自立した学習態度を育てている。また資料の配信は余裕を持たせて、実施授業の1週間前に行っている。90分間の長い授業を大教室で行うため、一授業で一回は学生を飽きさせないようブレイクの時間を作るように心がけている。今後に向けては、Live Campus を取り入れたり、具体的な事例から理論へと提示の仕方を変えてみることも考えている。</p>			
【学生へのインタビュー】			
<p>教師になる上で知りたいこと、学びたいことを学ぶことができた。具体的には教壇での立ち位置や評価、板書、発問、机間指導の仕方について、具体的に先生の経験談を交えて分かりやすく教えていただいた。導入や発問の仕方についても、そのあとの実習で活かせることが多かった。先生自身の話を聴きながら自分自身を見つめる機会となった。ゲストティーチャーの話は、人間の本質を考えさせる内容で、大教室の中を受講生同士が交流しながら移動し印象深かった。先生の話をして写すだけの授業ではなく、皆で考える時間があった。実践的な学級経営に興味があったが、面白い先生の話を楽しく聴くことができた。私語をする学生をしっかりと注意してくれ、授業に集中することができた。大教室の授業に求めるものは、実践に近い内容で、退屈させない、聴きっぱなしではなく、何のためにやっているのかわかる授業である。映像があると集中しやすく、難しい専門用語ばかりでは理解できない。期末試験では、学んだことを元に、自分のオリジナルな考えや意見を書くことができ、安心感と自信を持って臨むことができた。(これらの意見が聴かれた。)</p>			
【総括】			
<p>175名の受講生を対象にした大教室での授業で、学生達は昼食後の先生の授業を毎回楽しみにしていた。学習規律を押さえた上で、生徒の心を読みながら、教材や授業の進め方に工夫を凝らし、タイムマネジメントがきちんに行われていた。理論的な事柄だけでなく、実際に教員になった時に役立つ知識が得られ、ユーモアのある先生の経験談に惹きつけられているのがよく分かった。また、ゲストティーチャーの授業内容も魅力的で、学生に貴重な学びの機会を提供していた。よって、授業評価の高さ、自由記述欄の具体性、インタビュー内容を勘案し、本授業をベストクラス候補として相応しいと結論した。</p>			